

交遊抄

1年前、当時は一言を添えて握手す
時の日本ベンチャーキャピタル協会の会長、尾崎一法
長、尾崎一法

新年会で次期会長に指名されてから、日本のベンチャー企業の将来や、ベンチャーに投資し育てるVCの役割について一対一で薫陶を得た。この濃密な時間は今では宝物だ。現在の協会の活動内容の多くは尾崎さんが授けてくれたと言っている。

皆さんの新年会に呼ばれた。集まったのはベンチャーキャピタル（VC）業界で活動する同世代の8人。尾崎さんは皆に告げた。「僕は病と闘わねばならない。これからは君たちが業界を引っ張ってほしい」

尾崎さんは、20歳ほど年上で、大手や外資系VCでキャリアを重ね独立された、業界の大先達だ。VC協会の幹部としても創設来活躍し、会社の枠を超えて若手にも気さくに声をかけてくれた。

夢の先達の大

一 聡 蘭 屋 仮

対一で薫陶を得た。この濃密な時間は今では宝物だ。現在の協会の活動内容の多くは尾崎さんが授けてくれたと言っている。

新年会から3カ月後、尾崎さんは

帰らぬ人となった。「VCの活動を通じて日本の発展に貢献したいんだ」。熱く語っていたその思いは我々も同じ。遺志を継いだ仲間たちと力を合わせた。尾崎さんの夢をかなえたい。（かりやそのま）

仕事には厳しいが、人なつっこい笑顔で場を和ませる。「よっこ〜」たのむよ」。会話の最後に「キャピタル協会会長」

※ 本ページに掲載の新聞記事につきましては、使用許諾を取得しております
日本経済新聞（2016/1/29）朝刊「交遊抄」